

- ①憲法の謳う恒久平和実現のため、
第九条の非武装・不戦の誓いを広げる。
- ②被爆の実相を継承し、ヒロシマの声を発信する。
2015年度広島 YWCA 運動の課題
- ①憲法9条を守るための活動をする。
- ②原子力発電を否定し、ライフスタイルを見直す。
- ③敗戦・被爆 70 年にあたり、被爆証言を若い世代に届ける。



「建物疎開作業で亡くなった動員学徒の碑巡り」をふりかえって 関 千枝子

8月5日、文字通り炎暑の中、無事（熱中症にならなかった人もなく）、「建物疎開作業で亡くなった少年少女の碑巡りフィールドワーク」を終え、ホッといたしました。今年は、ちょうど出版する本の最終校正にぶつかり、デスクワーク、パソコンの作業で坐り詰めで、少し足の衰えを感じており、無事に歩けるかなと、内心ちょっと心配していました。ところがやってみると大変元気で、若い方に迷惑をかけない程度の速さで歩け、無事2時間の行程を乗り切りました。東京の友人が、「あのフィールドワークになると、あなたは目が爛爛とし、人が変わったように元気になる」と笑うのですが、多分、これは私の70年間の思いとこだわりがあるからです。

当時私は13歳、疎開作業に動員されていた少女で、もし、原爆投下が一日前でも、一日後でも、死んでおりました。それを幸運と喜べない「負い目」。あの作業は何だったのかという思い。そして広島市全部の中学校、女学校、国民学校高等科が被爆し、日本教育史上最大の被害と言われているのに、個々の学校の悲劇のように思われていて、あの平和大通りが、子どもたちの重労働でつくられたものということが忘れられていることに怒りを感じていました。初めは私個人でヒロシマに来るお友達を案内して、碑巡りをしておりました。昨年から広島YWCAの主催事業にしてくださり、本当にうれしいです。今年は中学生の参加も目立ち、喜んでおります。

今年は被爆後70年、盛り上がりしましたが、核兵器廃絶の兆しも見えない今、70年で終わらせてはいけません。もし私で良ければ、生きている限り広島に行き、お話しをしたいと思います。何しろ広島市全体の12歳から14歳の子どもたちが亡くなったのですから。それも、大やけどで人と言えぬ姿になり、

苦しみ、うめきながら。

ただ、終えてみてこれで良かったのかな、とも思っています。

平和大通り、旧雑魚場町（現 国泰寺町）。少年少女たちの「墓場」のあとを歩き、そのあたりにある慰霊碑前で説明するのですが、このあたりにある慰霊碑はかなり有名な学校の碑が多いのです。一方、碑さえない学校があります。それは国民学校高等科に多いのです。碑もなく、遺族の証言さえ残っていない子どもたちの無念を伝えることはできないだろうか。フィールドワークの資料で工夫はできないか、などと考えています。

被爆後70年、参加者に若い方が増えるにつけ、「え!そんなことを知らないの!?!」と驚くことがあります。例えば、傷ついた中学生たちが、火の中で『軍人勅諭』を唱えた話を私はよくいたします。戦中の軍国主義教育の恐ろしさを物語るエピソードだと思いい、語るのですが、「軍人勅諭ってなんですか。勅諭の論ってどんな字を書くのですか」と聞かれ、歴史を知らないというべきか、70年続いた平和を称えるべきか、少し考えてしまいました。

来年、もし担当させていただけるなら、もっと若い方にわかりやすく説明しようと考えております。

＜関 千枝子さんプロフィール＞

1932年大阪生まれ。旧制女学校2年のとき広島で被爆。学校を病欠していたため助かる。早稲田大学ロシア文学科卒業。1954年、毎日新聞社入社、社会部、学芸部の記者を務める。のち全国婦人新聞（女性ニュース）記者、編集長。現在はフリーのジャーナリスト。2004年安倍靖国参拝違憲訴訟原告（筆頭）。

著書に「広島第二県女二年西組——原爆で死んだ級友たち」（筑摩書房、第33回日本エッセイストクラブ賞受賞、日本ジャーナリスト会議奨励賞受賞）「図書館の誕生——ドキュメント日野市立図書館の、20年」（日本図書館協会）、「この国は恐ろしい国——もう一つの老後」（農山漁村文化協会）。最新刊はこの8月に出版された「ヒロシマの少年少女たち」（彩流社）。

平和のバトンをわたす

～夕張の中学生をひろしまに招くプロジェクト～

2015年8月4日(火)～8月7日(金) (報告)

前田圭子 (広島YWCA会員、夕張プログラム実行委員)



今年は中学3年生2人、引率の教師1人をお迎えしました。

「おとなになったら、今度は自分の力で必ず広島に来ます。」
「この夏、ひろしまで見たこと、聞いたこと、平和の大切さを夕張の友だちに伝えます。」

笑顔と力強い言葉を残して、今夏の夕張中学校の参加者は帰っていきました。

夕張市では、被爆者の故・沼田鈴子さんを夕張に迎えて、被爆証言を聴いたことがきっかけとなって、1994年から2006年まで「中学生広島派遣事業」を続けてきました。しかし、2007年夕張市が財政破綻し、その年の派遣事業は中止となりました。

沼田鈴子さんや元教師の被爆者・豊永恵三郎さんが、市の都合で貴重な平和体験の機会を失うのはしのびない。募金をして、夕張市の中学生を広島に招きたいという希望を受け、2008年に広島YWCAにて実行委員会を結成し、市民の募金で平和派遣事業の受け入れ団体となりました。当初は、募金がいくら集まるかわからず、また民間団体の受け入れで、果たして夕張市の中学校が生徒を送り出してくださるのかどうか、不安をいだきながらのスタートでした。しかし、夕張市教育委員会は従来と変わらず、当時3つの中学校がそれぞれ代表を1人ずつ選出、教師の引率も付けて、広島に送り出してくださったのです。

心配していた募金は広島市民を始め、全国の北海道出身者、学校関係者、キリスト教会の方々が協力して下さり、初年は100万円を超える額を集めることができました。その後、東日本大震災や広島土砂災害など大きな痛みの影響も受けて募金額は徐々に減りましたが、8回目の今夏まで、市民募金でこの活動を継続することができました。

昨年2014年には夕張市が中学生広島派遣事業を始めて通算20年目となり、今年は夕張市教育委員会が過去20年の参加者に当時の思い出と今思うこと、の原稿を集め、編集し、この事業が参加者の心にいかに平和の種をまき、育てていったのかを知ることができました。



広島YWCAでこの派遣事業を引き継いで8年の間に、夕張市の中学校は3校から1校に統合されました。人口の減少とともに中学校入学生も減少し続けていると聞きました。しかし、毎年、歓迎会で夕張市の紹介をする中学生から「私たちは、そして夕張の町は元気です」「紹介したい魅力的なところがたくさんあります」と教えられました。一度として同じ内容の紹介はなく、中学生たちの目線で夕張市をしっかりと見ていることに、私たちは感心し、この子たちが夕張の希望そのものであることを確信しました。

引き継いだ当初は派遣事業の内容を教えてください、なるべくそれまでの事業と大きな変化がないように、踏襲していました。やがて、回を重ねるごとに互いの信頼関係が増し、参加者や引率教師の意見を参考に、「グループ夾竹桃」による被爆体験の朗読、平和公園周辺の碑めぐりやフィールドワークなど、プログラムの内容は少しずつ広島YWCA独自のものに変わっていき、充実していきました。原爆の被害に加え、加害の歴史、またあまり知られていない事実も広島YWCAに関わる人生の先輩たちがしっかりと中学生たちに伝えていきました。

当初から8年間ずっと関わってこられた豊永恵三郎さんは、被爆証言や挨拶の最後に必ず「私たちはできる限りのことを精一杯やった。これからはこの平和のバトンをあなたたちにわたします。」と中学生たちに告げます。毎年、必ず感想文に「平和のバトン」という言葉が出てくることから、中学生がしっかりとそのメッセージを受け止めたことがわかります。

今夏をもって、一旦この事業は立ち止まり、今後の夕張とのつながりを再考することになりました。この8年間に関わってくださった多くの皆さまに、そして送り出すために様々な協力をしてくださった夕張の皆さまに心より感謝申し上げます。8年間の平和の種まきの成果は、きっといつか具体的な形であられることと信じています。





ひろしまを考える旅 2015

被爆から70年とはなんだったのか? ~そして未来に向けて~

広島市内より参加の2人のユースにレポートを寄稿していただきました。

「ひろしまを考える旅2015」を終えて

味村奈実

(ノートルダム清心女子大学 3年)

今年は終戦70年という節目の年であり、戦争体験者が激減する中、戦後生まれの私達一人ひとりが戦争や平和について真剣に考える時が来ているのではないのでしょうか。日本YWCA主催の「ひろしまを考える旅2015」は、8月11日~13日の2泊3日で開催されました。1日目は平和記念資料館の見学や映像で知るヒロシマ。2日目は希望コース別のフィールドワークや被爆証言、平和公園内の碑めぐり。そして最終日はワークショップを行い、参加者全員でみんなの想いを乗せた巨大な折鶴を折りました。

私は、広島市在住のボランティアリーダーとして初めてこの旅に参加し、参加者の皆さんと共に過ごしました。戦争や平和について学び、互いの考えや想いを分かち合い、とても有意義な時間でした。

アジアから来られた参加者のお話を、グループワークやタペの祈りの時間などにお聞きすることができました。

日本が戦時中に犯したアジア諸国への加害について、私達はしっかりと学ぶ必要があるし、加害の事実と向き合わなければ何も始まらないと思いました。

この旅を終え、戦後70年を経た現在の日本において、何が変わり、変わらなかったのか、精査する時が来たのではないかと思います。

70年前、世界で初めて原子爆弾による大量虐殺を経験した広島は、「ヒロシマ」を継承し、世界平和の実現されるその日まで、反戦と核廃絶を訴え続ける地でなければなりません。



日本YWCA主催

「ひろしまを考える旅2015」に参加して

森岡佑梨

(広島修道大学 1年)

今回、YWCAのプログラムに参加するのも、ボランティアリーダーとして参加するのも初めてでしたが、この企画に参加することが出来て本当に良かったと思います。原爆や戦争の悲惨さ・日本の加害・平和の尊さについて学ぶきっかけにもなり、実際に学ぶことが出来ました。

私は広島市民ですが、このプログラムの参加者はほとんど広島県外の方で、中国、韓国、台湾、ミャンマーの方もいらっしゃいました。広島に関心を持って下さっている方がたくさんいることを知って、とても嬉しかったです。

特に印象に残っていることはワークショップです。とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。10人くらいの各グループで色々なテーマに沿って意見を出し合い、紙に書きました。私たちのグループでは、中国と台湾の参加者がいらっしゃったこともあり、『アジアの人たちが仲良くするためには』をテーマにしました。“歴史や文化を尊重する”“共通点を探す”“お互いのことを知る”“強いつながり”など、たくさんの意見が出ました。そのなかでも、台湾の方から「同理心」という素敵な言葉を頂きました。これは台湾語で「相手の気持ちと自分の気持ちを分かり合う」という意味だそうです。海外の参加者から意見を直接聞くいい機会になりました。話し合いをしていて、そのテーマについてよく考えていることがどの参加者からも伝わってきました。この3日間で学んだことをこれからに活かしていきたいと思います。

It was the first time for me to participate YWCA's programs and take part in this "Pilgrimage to Hiroshima 2015" as a person who supports it. However, I think it was good for me to participate this program because I had a chance to think about how terrible the atomic bomb and war, what Japanese did to foreigners in the past and how important peace is.

I've lived Hiroshima since I was born there. However, many people who live other Prefectures or foreign countries participated in this program. So, I was glad to see that there are a lot of people who are interested in Hiroshima.

The most impressive event for me was discussion and working with my group. It was the significant time. Through this event, each groups which was consisted of about ten people talked about a theme which it decided to talk, and wrote on the paper. My group decided to talk about "what should you do to enjoy friendly relations with another Asian people" because my group had Chinese and Taiwan people. There were many ideas, for example, "you should respect histories or cultures each other", "you should find commonalities each other", "you should understand each other", "you should connect strongly each other" and so on. I heard the nice word "dorisinn" from Taiwan woman. This word means that understanding both opponent's ideas and your ideas. It was a nice chance to hear foreigners' opinions. When we talked together, I realized that every participants thought about themes which we decided to talk about very well.

I want to live without forgetting what I learned from this program.

Yuri Morioka

手作りカフェ
「陶芸のじかん」

参加無料

日時：2015年9月16日(水)

場所：広島YWCA 仮会館
(日本キリスト教団広島主城教会1階)

参加費：無料

各回定員 10名
(申し込み順)



午前の部 10:00～11:30
『鉢物を作ろう!!』
…型を使って、少し深さのある器を作ります。



午後の部 13:30～15:00
『葉っぱのお皿を作ろう!!』
…本物の葉っぱを型に、お皿をつくります。

お申し込みは広島YWCA 082-258-4878 まで

広島YWCA 平和講座 第3回

「広島・ヒロシマ・広島をジェンダー視点で検証する」

講師：高雄きくえ (ひろしま女性学研究所代表)

日時：2015年11月14日(土) 10:30～12:00

会場：広島YWCA 仮会館

参加費：おとな¥700 (高校生以下無料)

広島YWCA 地域貢献講座

「ひとり暮らしはあすのわが身～独り身が家でのくらしをつらぬく(方法～) (仮題)」

講師：川越 厚 (医療法人社団「パリアン」理事長、

クリニック川越院長) ☆ホスピスケアの第一人者

日時：2015年11月14日(土) 15:00～16:30

会場：広島YWCA 仮会館 参加費：500円(予定)

「キリスト教あいうえお」

広島主城教会牧師 足立こずえ

キリスト教を知るための手ほどきを「あいうえお」ではじめてみました。「あいうえお」で始めれば、「あ」はたいてい「愛」の「あ」になります。それではなくて、聖書から「あ」のつく言葉で「足」、「弟子の足を洗うイエス様」で始めてみたいと思います。

イエスが死の直前に、弟子たちの「足」を洗った物語が残っています。イエスが「最後の晩餐」—ダヴィンチの絵で有名です—を弟子たちと共にされました。ほぼ食事が終わった時、イエスは弟子たちの足を洗い始めます。その中で自他ともに認める一番弟子のペテロが自分の番に来た時に拒みしました。そこでイエスが一言「もし私があなたを洗わないのなら、あなたは私と何のかかわりもないことになる」と。

和辻哲郎の「土下座」という短文があります。ある男—きっと和辻でしょう—の祖父の葬儀の時、その村では会葬者に対して墓所の前で粗筵(あらむしろ)にしゃがみ土下座をするのが風習だったようです。驚きながらも父親と並び土下座をしながら、靴をはいた足や、足袋で守られた足よりも多くの銅色にやけた足が彼の目の前を通り過ぎます。通り過ぎる人々の腰までも彼らが恐縮しているのが分かります。その時、彼は祖父を通して村人との「密接な交通」を知ります。彼は風習だから土下座をしていたにすぎないのですが、そのように身をおいて思いがけないほど謙遜な気持ちになれたのです。銅色の足と自分との関係がやっと正しい位置に戻されたとありました。イエスがペテロに言われたのもその事だったのです。

神との正しい関係が大事なのです



「9の日行動」9月9日(水) 17:00～元安橋東詰め

憲法9条をまもるためのアピール活動です。ぜひご参加ください。

おとな陶芸～てびねり陶芸クラブ～

於：広島YWCA 仮会館

日時：2015年9月28日(月) 10:00～12:00 参加費：¥2,160-

《感謝》 7月1日～8月31日(敬称略)

(賛助費) 渡辺和子 水田よし江 中木風子 斎藤喜子 山崎敦子

(一般寄付) 日本キリスト教団竹原教会 中区分室プロジェクト てのひら 森元えい子 女子学院中学校・高等学校 野のユリの会 斎藤喜子

(夕張の中学生をヒロシマに招くプログラム)

平田香都子 足立こずえ 戸田照枝 世良雅子 半井康恵 岡持和貴子 川金美智子 島津弘子 村上啓子 斎藤喜子 正岡美和 朴南珠

ご協力に心よりお礼申し上げます

《理事会・定例会》

7月 第1回 定例会(日時:2015年7月6日(月)18:00～20:00 会場:広島YWCA 仮会館)

議題:第一号 各部会の組織、構成員 部会日、方針、喫緊の取組事項などについて(中区分室設置プロジェクト進捗状況(難波)・HEP 部会(足立)・平和活動部会(難波)・募金活動部会(平田)) 第二号 ひろしまを考える旅ユース参加費補助について 第三号 ピーター・バラカン DJ ライヴについて(取組担当:理事会) 第四号 日本YWCAへの加盟費支払いについて 第五号 報告事項・その他(①長期会館計画委員会・大手町4-3-7計画について ②夕張の中学生を広島に招くプロジェクト ③7月ニュース発送について ④川越厚医師講演会(ホスピスケア)の提案について 議題に関し、報告、協議、決定を行った。

8月 第2回 定例会(日時:2015年8月17日(月)18:30～20:30 会場:広島YWCA 仮会館)

議題 第一号 報告事項 ・グランドコミュニティ社の返事について・ひろしまを考える旅実施報告 ・各部会報告(地域貢献事業「手づくりカフェ 陶芸のじかん」、募金事業部会 クリスマスバザー11月28日(土)について、平和活動部会 プログラムの報告等) 第二号 ピーター・バラカン DJ ライヴ 実施について 第三号 川越 厚講演会 11月14日(土)について 第四号 財政について 第五号 会館の契約について

議題に関し、報告、協議、決定を行った。